

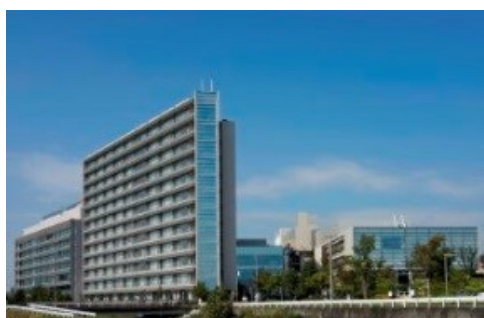
突撃!

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2018
7月号

No.107 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 安全環境管理室 副室長 鈴木朱実 様 ・ 医療安全管理者 和田美保子 様



【刈谷豊田総合病院／愛知県刈谷市】



【SMT メンバー】

【前列一番左:鈴木様 / 前列左から三番目:和田様】

■病院の紹介 (抜粋)

1962 年 9 月 刈谷市とトヨタ系グループ 7 社により医療法人豊田会設立
 1963 年 3 月 「刈谷豊田病院」として開院
 1966 年 9 月 総合病院承認
 1983 年 1 月 「刈谷総合病院」に改称
 1998 年 6 月 日本医療機能評価機構認定
 2006 年 4 月 「刈谷豊田総合病院」に改称
 2007 年 3 月 災害拠点病院（地域災害医療センター）に指定
 2010 年 6 月 愛知県がん診療拠点病院に指定
 2011 年 3 月 愛知 DMAT 指定医療機関に指定
 2011 年 4 月 救命救急センターに指定
 災害拠点病院(地域中核災害医療センター)に指定
 2013 年 4 月 第二種感染症指定医療機関に指定
 2015 年 12 月 地域周産期母子医療センターに認定
 2016 年 10 月 地域医療支援病院の承認を受ける
 【病床数 672 床】

■豊田会の理念

保健・医療・福祉分野で社会に貢献します

■豊田会の方針

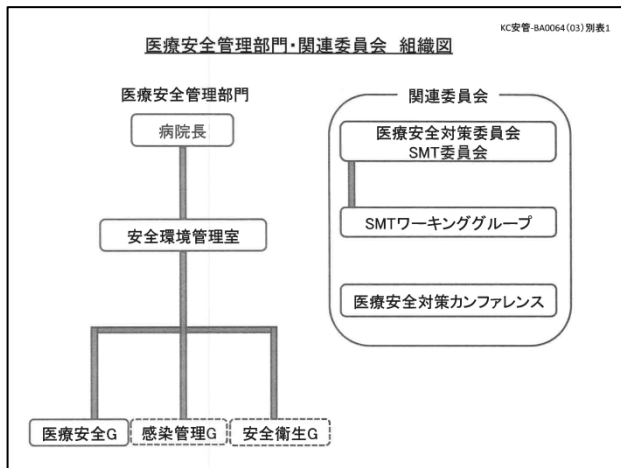
温かい思いを込めた、質の高い保健・医療・福祉サービスを提供します。

1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制について教えてください。

医療環境管理室は院長直下にあり、その中は「医療安全」「感染管理」「安全衛生」の3つのグループに分かれています。当院の特徴は各部門の部課長クラスで構成される SMT（Safety Management Team）メンバーの存在です。医療安全は SMT と SMT ワーキンググループと専任者が一丸となって、病院全体の医療安全を推進しています。

ワーキンググループのメンバーは各部署から選出された、医師や看護師・薬剤師をはじめとする、ほぼ全ての職種から構成されています。メンバーは、名札にピンクの SMT バッチをつけて、セーフティマネージャーである師長やリーダーと共に、インシデントやアクシデントに対する分析や対応策を積極的に考案する文化が引き継がれています。



【医療安全管理部門・関連委員会 組織図】

KC 安管-AA000

SMTメンバー

所属部門	職位/職種
診療部	顧問、安全環境管理室室長(副院長)、副室長(麻酔科部長)、総合内科部長、呼吸器・アレルギー内科管理部長、研修医
看護部	副室長(看護部副部長)、医療安全管理者、看護師2名
薬剤部	医薬品安全管理責任者(薬剤師)
臨床工学科	医療機器安全管理責任者(臨床工学技士)
臨床検査科	臨床検査科リーダー(臨床検査技師)
放射線技術科	健診センターリーダー(放射線技師)
情報企画室	情報企画室リーダー
リハビリテーション科	急性期グループリーダー(理学療法士)
安全環境管理室	事務員

【SMTメンバー構成】

KC 安管-AA000
平成 30 年 4 月

医療安全関連委員会

医療安全対策委員会・SMT委員会	
安全環境管理室室長	
安全環境管理室副室長(医療安全担当)	
医療安全管理者	
医薬品安全管理責任者/医療機器安全管理責任者	
SMTチーム員	
(外科系医師、内科系医師、臨床研修センター医師、初期臨床研修医、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、看護師、事務)	

SMTワーキンググループ (37名)	
看護	コメディカル・事務
看護部	診療技術部
1-2F	臨床検査・病理技術科
1-3F・感染症病棟	放射線技術科
1-4F	リハビリテーション科(2名)
1-5F	臨床工学科
1-6F	栄養科
1-7F	歯科口腔外科
1-8F	患者サポートセンター
1-9F	企画管理室/総務室
1-10F	事務
1-11F・12F	情報企画室
2-13F/NICU/GCU	設備管理G
2-4F・5F	医事室/診療情報G
2-6F	健診センター
2-7F	
内視鏡センター	
救命救急	
ICU	
3-6F・夜間救命病棟/CCU(2名)	
手術室	
外来2F・3F	
外来4F・化学療法センター	
薬剤部(2名)	

【医療安全関連委員会】

主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えて下さい。

私たちの業務は以下の内容です。

1. 医療事故の予防、業務の標準化
2. 各部署から提出されるレポートの分析・管理
3. 職員教育・訓練
4. 医療事故・過誤の対応・原因分析
5. 再発防止策の検討および院内展開
6. 院内巡視による情報収集
7. SMT ワーキンググループを主管
8. ワーキンググループの指導・活動支援

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

近年の事例発生状況やその原因や対策について教えてください。

一番多く発生しているのは薬剤に関わる事故です。それに次いで多いのが、ドレーンまたは転倒・転落です。件数や比率はこの5年間で大きな変動はありません。

転倒・転落事故に関しては、やはり高齢化とリンクしていると言えます。高齢の患者さんは、入院という環境の変化に適応できない方が多く、そのため入院時の必要物品としてスリッパではなく履き慣れた靴をすすめています。

また、事故防止は当然のことながら事故が起きてしまった場合でも重症化しないように、患者さんに合わせたベッドの選択やベッド周りは離床センサーを設置して対策を施しています。

特に注力されている貴院の特徴的な取り組みやシステムがあれば教えてください。

先程お話ししたSMTやSMTワーキンググループの活動が主に当院の特徴ですが、それ以外にも患者様の状態を見てデイケアの取り組みを導入していることも特徴のひとつです。患者さんの人権を尊重し、現在の身体機能を下げずに在宅復帰ができることを目的として、週に2回1時間程度、座位でできるラジオ体操・輪投げ・風船バレーボールなどのメニューに取り組んでおり、病棟看護師からは患者さんの睡眠リズムが良くなった点や取り組み時の豊かな表情などに一定の評価を得ています。またスタッフの負担軽減にも繋がっているという声もあがっています。



【デイケアの様子】

3. 医療安全に関する研修について

医療安全に関連した研修の年間実施計画や、地域病院との医療安全に関する連携があれば内容を教えてください。

全職員やワーキンググループを対象に年間計8回の研修を開催しています。

当院は地域医療支援病院ですので、開催する研修は院外の医療・介護施設にも案内しており、特に医療安全に関する研修は多くの方に参加いただいています。

また、今年度からスタートした「医療安全対策地域連携加算制度」の関係で、近隣の病院と相互ラウンドを実施しています。

3) 医療安全対策地域連携加算の新設①		1/31
医療安全対策加算に医療安全対策地域連携加算を新設するとともに、既存の点数について見直す。		
改定案		
<医療安全対策加算（入院初日）>		
1. 医療安全対策加算 1	85点 →	85点（変更なし）
2. 医療安全対策加算 2	35点 →	30点
（新）注 医療安全対策地域連携加算		
イ. 医療安全対策地域連携加算 1	...	50点
ロ. 医療安全対策地域連携加算 2	...	20点
<算定要件>		
医療安全対策加算を算定する複数の医療機関が連携し、医療安全対策に関する評価を行っていること。		

3) 医療安全対策地域連携加算の新設②		2/31
改定案		
<施設基準>		
医療安全対策地域連携加算 1		
(1)医療安全対策加算 1 に係る届出をおこなっていること		
(2)医療安全対策に3年以上の経験を有する専任の医師又は医療安全対策に係る適切な研修を修了した専任の医師が医療安全管理部門に配置されている		
(3)他の医療安全対策加算 1 に係る届出を行っている保険医療機関及び医療安全対策加算 2 に係る届出を行っている保険医療機関と連携し、それぞれ少なくとも年1回程度、当該加算に関して連携しているいずれかの保険医療機関に赴いて医療安全対策に関する評価を行い、当該保険医療機関にその内容を報告すること。また、少なくとも年1回程度、当該加算に関して連携しているいずれかの保険医療機関より評価を受けていること。なお、感染防止対策地域連携加算を算定している保険医療機関については、当該加算に係る評価医療安全対策地域連携加算に係る評価とを併せて実施しても差し支えない。		
【課題】医師の配置と他医療機関との連携		

【医療安全対策地域連携加算について】

4. 離床センサーについて

使用センサー：コールマット・コードレス × 64 台

対策用具の使用基準や課題があれば教えてください。

身体拘束について病棟でリスクアセスメントを行う際にフローチャートを使用して各種リスク対策用具を選択しています。

離床センサーは「患者さんを拘束・抑制しないための対策用具」なので使用制限はなく必要性のある患者さんには積極的に使用しています。

※離床センサー使用効果などについては「現場レポート」でご紹介いたします。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

離床センサーは定期点検よりも使用前に行う点検こそが重要だと感じています。簡単に動作チェックできる方法やチェックリストのような物があれば欲しいです。また購入後 10 年程度経過している物も増えてきています。私たちは常に新しい取り組みを検討する必要がありますので、新機能などがあれば製品情報も定期的に知らせて欲しいです。

6. 何か一言お願いいたします。

病院の PR やポリシーなどをお聞かせ下さい。

当院の医療安全は SMT の存在や活動が重要だと思います。SMT ワーキンググループの 6 チームが自主的に医療安全を推進し、多職種のメンバーで運営しているので様々な視点から意見や情報収集が出来ており、さらにこの体制や文化を継続・醸成させていきたいです。

SMTワーキングの取り組み	
Aチーム (医療安全教育)	・SMTワーキングメンバーの育成(勉強会の企画) ・医療安全教育の運営 ・医療安全推進週間イベントの企画・運営
Bチーム (医薬品管理)	・医薬品管理に関する改善の取り組み
Cチーム (転倒・転落防止対策)	・ベッド/ベッド柵の安全使用サーベイランスの実施 ・転倒・転落防止対策の検討
Dチーム (心電図モニター適正使用)	・心電図モニター適正使用のサーベイランスの実施 ・病棟ラウンドを実施し、適正使用されているか確認 ・心電図モニター適正使用のための教育の実施
Eチーム (KYT活動推進)	・KYT活動を推進
Fチーム (誤認防止)	・誤認防止対策の検討

【SMT ワーキンググループの 6 チームについて】